

平成25年12月6日

No.114

〈足下をみる〉

本日、新聞に「県内倒産件数2件増の64件、従業員10人未満の企業が全体の9割弱を占め、中小・零細企業の倒産が目立った。業歴10年以上の倒産も全体の5割に達した。業種別では卸売業やサービス業などの倒産が増加した。10月から倒産件数が増加傾向となっている」と書かれていました。本年残念ですがお客様倒産もあつた。倒産すればマイナス効果ばかりで何も良いことはありません。社員さんを路頭に迷わせ、取引先には貸倒れ、お客様には迷惑、貸倒れに利、復収減、悪い事ばかりです。経営者の罪は重いです。もう一つ本日新聞に「個人保証見直し私財一部手元へ。経営者自らが融資の保証人となる「経営者保障制度」を見直す。業績が悪化した場合でも、中小企業の経営者の手元に当面の生活費や自宅などの財産を残すことを認めると全銀協など指針発表」と書かれています。経営者に再起のチャンスを与える。最低限の生活を保証すると、経営者としては良いことですが、もう刃の剣であり、使っ方も誤ると、問題も多いと感じますし、判定する機関は、みる目(目利き)が重要になると思います。私自身の経験から感じることですが零細企業は、価格競争、安売りはしない、時間ばかりかかるとか、高く売る方法を考える。競争の激しい市場は避ける。夢・理想だけを追わず、常に足下を見据える。急な拡大はせず、一步一步地道な拡大、財務体質を強化してから、拡大する。経営者に行動力がある、夢のあるビジョンがある、話題性がある、これも大事なことでと思います。もっと大事なことは、現実を見る、足下を見る、小さい積み重ねをすることだと思います。「小さくてもいいじゃないか」高林幸裕